

◇保育科第三部 主要科目の特長

科目	特長
保育原理A	今の社会に必要とされる保育について、システムや法令、歴史的変遷や現代的ニーズ等を中心として真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、社会変化やそれに伴う保育の課題を軸に考察を深めていきます。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。
教育・保育の計画と評価	教育課程や全体的な計画、指導計画の作成について、その意義を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができるように、基本的な知識を修得する。保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する指導計画の作成について理解することを目的とする。さらに、保育をめぐる今日的課題をいろいろな方法で察知し、子どもや保育に関する様々な専門的知識を修得し保育の実践力を養う。
保育の心理学	保育・教育実践上、各発達理論および子どもの発達過程を理解することが不可欠である。保育の心理学では、人間の生涯にわたる発達過程を理解したうえで、発達を踏まえた養護および教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を目指す。誕生から死に至るまでの人間発達の流れを複数の発達段階に区分し、それぞれの段階における発達の特徴を学び、さらに乳幼児期の子どもの発達特性に合わせた支援方法を考えることを目標とする。
子どもと音楽表現	幼児の感性や想像力を豊かにする音楽表現や楽器の特性を生かした音楽活動を学び、幼児期の音楽活動、表現活動を支援するための知識、技能を習得すると同時に自らもペアや少人数でアンサンブルを通し、音楽の楽しさを体験する。
子どもと造形表現	本授業は、保育者として子どもの造形行為から発達の姿を理解し、子どもを取り巻くさまざまな環境が造形表現につながるような、基礎的な保育技術や知識を身につけることを目的としています。子どもの発達に応じた造形への関心を高める内容で進めていきます。
子どもと身体表現	子どもが体で表現することが心と体の発育発達に与える影響について学ぶ。幼児期の身体表現の特徴について理解し、発達に応じた活動や遊びの展開について考える。また、自分自身の身体についての理解を深め、感じたことを既成概念に捉われず自由に表現することのできる力を身につける。

◇保育科第三部 主要科目の特長

科目	特長
社会福祉	社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。実践で求められる諸領域(児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など)の基礎的知識を学び、保育士に必要な力を養うことを目指す。
教育原理	教育の本質、意義や役割、教育思想と教授論の歴史的展開等について学ぶと共に、現代社会の変化に対応した教育課題や子ども・家庭・地域を取り巻く教育・幼児教育の現状と課題、これからの方向性について理解し考えることで、教育について広い視点から洞察する力を身につけることができるようにする。
教師・保育者論	学生が目指す保育者像を明確にし、その実現のために必要な学習課程を計画する。また、保育に関する知識を深める。I期に学んだ理論や実習からの学びを通して、チーム学校運営の一翼を担う保育者としての資質の向上と実践の省察、評価の大切さを知る。さらに、学生自身の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用するなど、自らの望ましい保育者像を構想する。
学び発見ゼミ	「学び発見ゼミ」は、初年次教育の一環として位置づける授業です。短大3年間の学びへの見通しをもち、自身の課題および目標を明らかにすることで、保育者としての自覚を高めます。それと同時に、書く・聞く・発見する・まとめる・発表するといった専門的な学修の基礎となる力の向上を目指します。また、保育者を目指す仲間と一緒に、様々な共同活動に取り組む中で、共感性・協調性・コミュニケーション力を高めます。
学び探究ゼミ	「学び探究ゼミ」は、「学び発見ゼミ」で学んだ基礎的知識や技能を基に、より具体的な活動を通して、社会人としての自覚や保育者としての専門性を高めることを目的とします。乳幼児対象の行事の企画や運営を通して、保育実践力と同時にコミュニケーション力を高めます。また、就職に関するガイダンスやワークを通して、進路実現のための基礎的知識と態度を身に付けます。
学び応用ゼミ	「学び応用ゼミ」は、保育に関する専門的な学びを修得しつつある学生として、当事者意識や自覚を一層うながすことを目的とします。具体的には現代社会における子どもや子どもを取り巻く環境、保育や保育者の位置づけなどを、様々な資料や体験談等から学びます。また、就職に関する様々なワーク等を通して、進路実現へと結びつけます。